

水理実験ガイダンス

安全の注意：(必ず守って下さい！)

- 1) 実験に適した服装でのぞむこと(靴をはくこと=サンダル不可, 7月注意!).
- 2) 実験の手順をしっかりと予習し, 班員の役割分担を事前に決めておくこと.
- 3) 実験中も班員同士の連絡をキチンとする(装置の動作音が大きい場合は大声で).
- 4) むやみに他の実験装置を触らないこと.

予習は必須!

実験に先立って, 必ず実験の手引きを読み, 予習をしておくこと. 実験を手際よく実行するためにも, また, レポートを書くためのポイントを頭に入れておくことは, 重要です. 実験で必要となるものは, こちらで準備しておきますが, 実験前に, どのようなものが必要であるのかを想定すること.

レポート作成にあたっての注意:

1) レポートは, メモではない.

メモであれば, 筆者自身のみが分かる書き方をしているにもかかわらず.

しかし, レポートはメモではありませんので, 読者がいます. 採点する教官も読者であり, また, レポート返却後に復習する君たち自身も読者です. 読者を意識して, 丁寧に記述することです. すなわち, キチンとした文章を書くことです.

式や数字の羅列は, メモであり, レポートではありません(最近では, 漢字の誤記も多い, 例えば, 減水率(コンクリート実験ですか?), 短調現象(単丁造花もあるの?), 観測地(現地観測に出かけましたか?), 新海域(干海域もあるのでしょうか?), U字間(V時間は, さすがにいません), 微笑振幅波(決して, 笑えません), 各店での波高(夜店で実験?), ... 毎年, 楽しませてもらっています).

また, メモには表紙は必要ありませんが, レポートには表紙をつけて下さい. 班名と学生番号も記すこと.

2) レポートには, はじめがあって, おわりもある.

小説やマンガに, “起承転結”があるように, レポートにも順序の整った筋(ストーリー)をつけてください. 一般的に,

- 1) 実験の目的,
- 2) 実験の概要(実験装置, 実験手順の説明)
- 3) 実験結果の整理と考察(くれぐれも, メモではありませんよ!),
- 4) 理論的な考察(実験に対する水理現象の理論などの説明),
- 5) その他の考察(感想ではない! 『楽しかった』では困ります),
- 6) 結論

という項目にしたがって, レポートは構成される(場合によっては, 3)と4)を織り混ぜた書き方もあり得る). レポートだけで自己完結するように心掛けること.

なお, 2)についても, 配付した「実験の手引き」を“写経”するものではありません!(実験者への説明としての手引き的視点と, 実際に実験したものが報告する視点では, 文章表現が異なることに注意せよ. 報告は, 少なくとも過去形になるはず)

3) 図表の書き方に注意

今一度あらためて教科書の図および表を見てもよい. 図表には, 図表番号, 図のタイトル, 軸の名称, 単位, 凡例などがついていることを再認識せよ. また, 本文の実験結果を考察する際には, 図表番号を指定すること(実験AおよびDでは, キャリブレーションの結果を必ず図示して下さい).

なお, 表の中に現れる数字については, 適切な有効数字を考えて下さい.

以上の点は, レポート作成の最低限のルールであり, これらのルールに基づいてレポートを作成することは, 最終学年で行う『卒業論文』を作成するための重要な練習です. また, 将来, 就職の後に, 業務として「報告書」などを作成する上でも必ず役立つと考えます.

以上のルールを満足しないレポートは, たとえ内容は正しいものであっても, 大減点します.